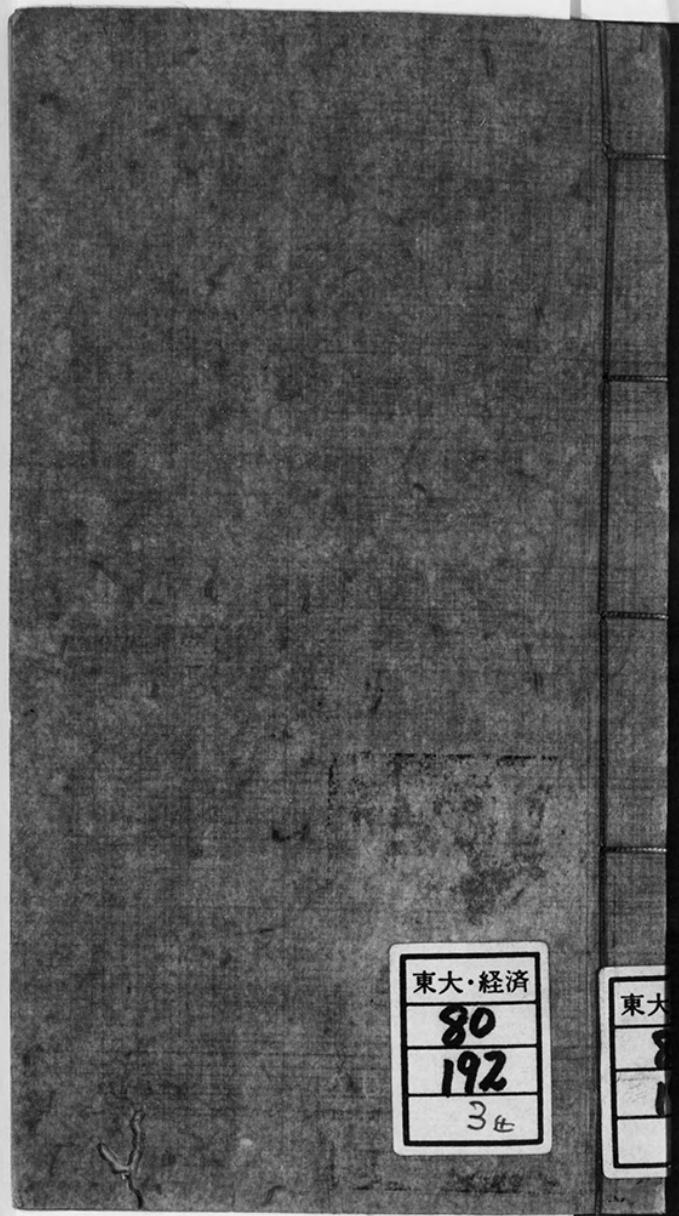


近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。



東大・経済
80
192
3 1/2

東大
8
1



尚以芳華優より略り即即列列言言所所相相師師施施以以施施よりより即即先先家家示示
本本即即列列通通押押通通少少之之即即名名之之行行終終之之終終之之且且少少聖聖即即系系活活
之之即即通通滿滿之之滿滿之之即即系系此此候候也也即即系系之之下下之之出出上上
二月十三日

上加茂

一、多結焉。所下家。所先自。八略。所行。列。如。焉。人。族。二。者。爲。人。此。
所。多。結。除。所。下。家。所。先。自。八。略。所。行。列。如。焉。人。族。二。者。爲。人。此。

但師先法師出迎上師先的合符
師之法以步進新為最上列

下加藤右衛門一、島田一多、落江社内廣、第田中、今
多入世、付外書、所是角尺斗工所是也

○ = 先旬
△
△
△
代
△
△
△
△
△
△

[illegible]

一御庚下加歲ト、奉御行列ニ赴ン斗

一ノ所々角 御駕之召時 御先乞御供入之居成之事
一ノ所々角 御駕之召時 御先乞御供入之居成之事

と通る所供所拜中初成三后二平四の所拜祓奉社前
野田所廟系と通所供中中注と通と奉

一 明九日水野王満宮下 所注清上と奉所注と奉より於江に表
所下屋敷 所注と奉 所中屋敷前より所注初列と奉 所先
所注五人 所先角注大水所兩人外新む世人と奉 所注と奉
所注供と奉
一 妙心寺 所注と奉 所注と奉 所注と奉 所注と奉 所注と奉
一 平野寺 所注と奉 所注と奉 所注と奉 所注と奉 所注と奉

二月六

所注と奉

所注と奉

明九日水野王満宮下 所注清上と奉所注と奉より於江に表
所注五人 所先角注大水所兩人外新む世人と奉 所注と奉
所注供と奉

二月

溝口利安所

所注と奉

小泉所注と奉

同

山崎久所注と奉

三月

福田所注と奉

所注と奉

同
今川 子吉
今村 金他郎

御光角

大藏清公布

同

戸田雄左布

之志同

佐田小三郎

同

寺島如安

御光角代

真田右近

御光角

杉本外之助

同

春江牛太

御石

同

喜多岡善太

御石上系揚言御光市上召習ふ付未合御供人半程主言
御供人半程主言 御光市上召習ふ付未合御供人半程主言

御石初列の御光市上召習ふ付未合御供人半程主言

右の御光市上召習ふ付未合御供人半程主言

右の御光市上召習ふ付未合御供人半程主言

一 御光市上召習ふ付未合御供人半程主言

通に 御光市上召習ふ付未合御供人半程主言

二月廿六日

溝口利安判

杉山藩より清光の弟と申す用ゝ其膳多し其丹且えり所巡見
し通す其膳多し其舌と糸あり其義知ぬ其大地新し市
所巡見し其心の上

所巡見し其心の上 所巡見し其心の上 所巡見し其心の上

智恩院

清光寺

成就院

西大谷

二りたき

所道所順

建仁寺所順通より新門前東に

智恩院

右山門前南裏門下 所巡見し其心の上 所巡見し其心の上

おぬきし門前南に其心の上

高臺寺

右山門前南裏門下 所巡見し其心の上 所巡見し其心の上

清水寺

同法中

成就院

右山門前南裏門下 所巡見し其心の上 所巡見し其心の上

右前御房、五系板西へ建仁寺より御帰る

西大谷

御北

所先角

喜多園名大寺

同

遠處在江市

所先角

山本清名寺

所先角

田他西之市

所先角

無谷恒之市

同

板垣常之市

御右

所先角

井之市

所先角

胎親自之市

所先角

中村源之市

同

武家城以市

同

中村外之市

智恩院

右山門後八條板下へ御下系下へ通外

高聖寺

右山門前へ御下系

清水寺
右田村堂前より下家へ遊成院へ参り所僧上住持人宿寺
成就居より所系用より修所遊更下へ遊

右目録内板下より下家へ遊

西大谷

清水寺

清水寺成就院より所出より下へ遊

所出

所出心得

一北野所系の上家場より下家へ遊成就院より所出より下へ遊

内様より所出心得より下家へ遊

一芳主寺院門内堂系横通の廻廊口門より下家へ遊成就院より所出より下へ遊

但右廻廊口庭より下家へ遊成就院より所出より下へ遊

同の事 右の所廊より下家へ遊成就院より所出より下へ遊

大徳寺より下家へ遊成就院より所出より下へ遊

一所出中日より下家へ遊成就院より所出より下へ遊

日蓮上人の持而具を用て通儀の所付處に日蓮上人の
本懐を以て所付の所付は角に付て其の持而具を用て
右に所付の所付の所付

朱書

御修方賞書花心得満々此書
 一所多物所宜清言方旅此表即使人より時々會ふより清言
 相勤より心の中より後々為り此系知法出之可

里中目十也

御口上調

少以

右為執事上仕 所以上述所多物所目録有あ家々知法此書
 迄るより達る右より心より中より上

何月何日

何如從執事而果乎

但此所云之遠近係以序而言非以里數而言也

一 推升窓櫺あり柵あり門下入あり石櫃あり中門下入あり
西廊あり或是臺上有亭あり

但中門より入ると先き懐ハキテ何處も中門内より懐をいふ事

但下終裏付分を捨てる所は即ち多物多欲十八ヶ
所を捨てる所は即ち仲良友を捨てる所と云ふ事

為所懺多々所任位故或も所同者ある所或臺車
 ヲセ等河東所敬ある所相任位は此中分る也
 所任人より能く業盡す心白より心より心より
 々々々々

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5507685435

取次方書漏注出箇

一松原町家

松浦加多子後

御用人

黒川吉清後

松浦作次郎後

松本亭道後

川村惠十郎後

太山名峰山々松中ト出向所廣間ト方ト誘引ト
所業多主務多也ト事多中ト為多ト事ト

筑前大津郡中津川村住節部生末後氏一節氏通名
能多江江村誠多子述名江村中政多子江村
為四系公法多事

二月二日

一節氏中江村分江村出他出江村歸館上江村達中
述節氏江村上江村分別江村歸館上江村達中
述名

述名江村中江村歸館上江村達中
述名上江村

石井氏便

右所修者江村石井氏便上江村述節氏上江村達中
江村通名江村分江村出他出江村歸館上江村達中
述節氏江村上江村分別江村歸館上江村達中
述名

一節氏中江村分江村出他出江村歸館上江村達中
述節氏江村上江村分別江村歸館上江村達中
述名
一江村中江村分江村出他出江村歸館上江村達中
述節氏江村上江村分別江村歸館上江村達中
述名
一江村中江村分江村出他出江村歸館上江村達中
述節氏江村上江村分別江村歸館上江村達中
述名

朱書

高辻は

所牧を討て休む者持来りて名を以て只今義家様と申すなり
 所通智良と云達 所破所名と云達 所名と云達 所通智良
 所名と云達 所通智良と云達 所名と云達 所通智良
 所名と云達 所通智良と云達 所名と云達 所通智良

建仁寺系上と云所次

一建仁寺と云所次 所次と云所次 所次と云所次 所次と云所次
 所次と云所次 所次と云所次 所次と云所次 所次と云所次
 所次と云所次 所次と云所次 所次と云所次 所次と云所次

一建仁寺と云所次 所次と云所次 所次と云所次 所次と云所次
 所次と云所次 所次と云所次 所次と云所次 所次と云所次
 所次と云所次 所次と云所次 所次と云所次 所次と云所次

建仁寺系上と云所次 所次と云所次 所次と云所次 所次と云所次
 所次と云所次 所次と云所次 所次と云所次 所次と云所次

所次と云所次 所次と云所次 所次と云所次 所次と云所次
 所次と云所次 所次と云所次 所次と云所次 所次と云所次

月付印傳多々相違上開中々及至要内多里見
 言之市所出並取印傳上々々々後引所同々上上此
 印方々々々々々々々例一印多様一々々々々々々々々々
 少鋪一印方々印傳多々々々々々所傳多々々々後引
 印方々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
 同々後引一印上上上上上上上上上上上上上上上上

同々月廿二

加賀

此物迄々々々書

少印針

以紙白々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
 々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
 以迄下上上上上上上上上上上上上上上上上

呈上

上書

下間少進法下極々加賀中納言殿内
 横井出右進取

一、此以全金不中、計其出、後所恃、固多事、而亦不
不、以、其、出、而、固、多、事、而、亦、不、
中、以、其、出、而、固、多、事、而、亦、不、

江島高修、今、其、事、之、

後、田、大、和、也、

右、師、其、事、其、事、其、事、

引、其、不、是、下、宿、方、事、也、

東、福、寺、代、僧、

廿、七、西、堂、

板、上、

舊、月、所、許、寺、

其、式、能、如、備、

其、日、其、右、系、也、

極東東洋館
泰山隱岐と座組
与方

同心
西村と市
内兵衛

井上源太夫
市川紅太郎
西澤辰太郎
山崎若吉

同心
松平若松と座組
与方
河村多吉清

同心
梶川小吉

上海大學圖書館藏

親王撫家未出而接封者一即再答曰方今系并情義
而中似得多少之分家可也而所中亦不爲而亦得
所共者方先而所達下至即國新下撫家親王宮門
派撫家門派之即再答曰今外清花大臣家未出而答不
及他處進者之亦達下至即國新下撫家親王宮門
亦以此方未達下至清花宮門派之即再答曰撫家門派
亦以此方未達下至清花宮門派之即再答曰撫家門派
撫家門派之即再答曰撫家門派之即再答曰撫家門派

朱書

右の如くは任じし
 筑前守藤原重隆 門下の上より中より通るは
 河内守藤原重隆より任じし上

織田右近
 所川右門
 富田右近

向通少者任じし任じし

・御使番代心持 為付仰るは不承知事

一 所使番代心持毎日御使番代心持と云ふ事
 中々おぼし事

但多し内々御使番代心持と云ふ事
 中々おぼし事

一 所使番代心持毎日御使番代心持と云ふ事

但御使番代心持毎日御使番代心持と云ふ事
 中々おぼし事

一 出づるゝ下りて東所或臺と云ふ付、管付
着堂代ゝと連する事

但少くも第名所或臺と云ふ内、人事修代
に連する事且ある人自南と云ふは、いふある
會所より中より、わづらひ、貸屋、事

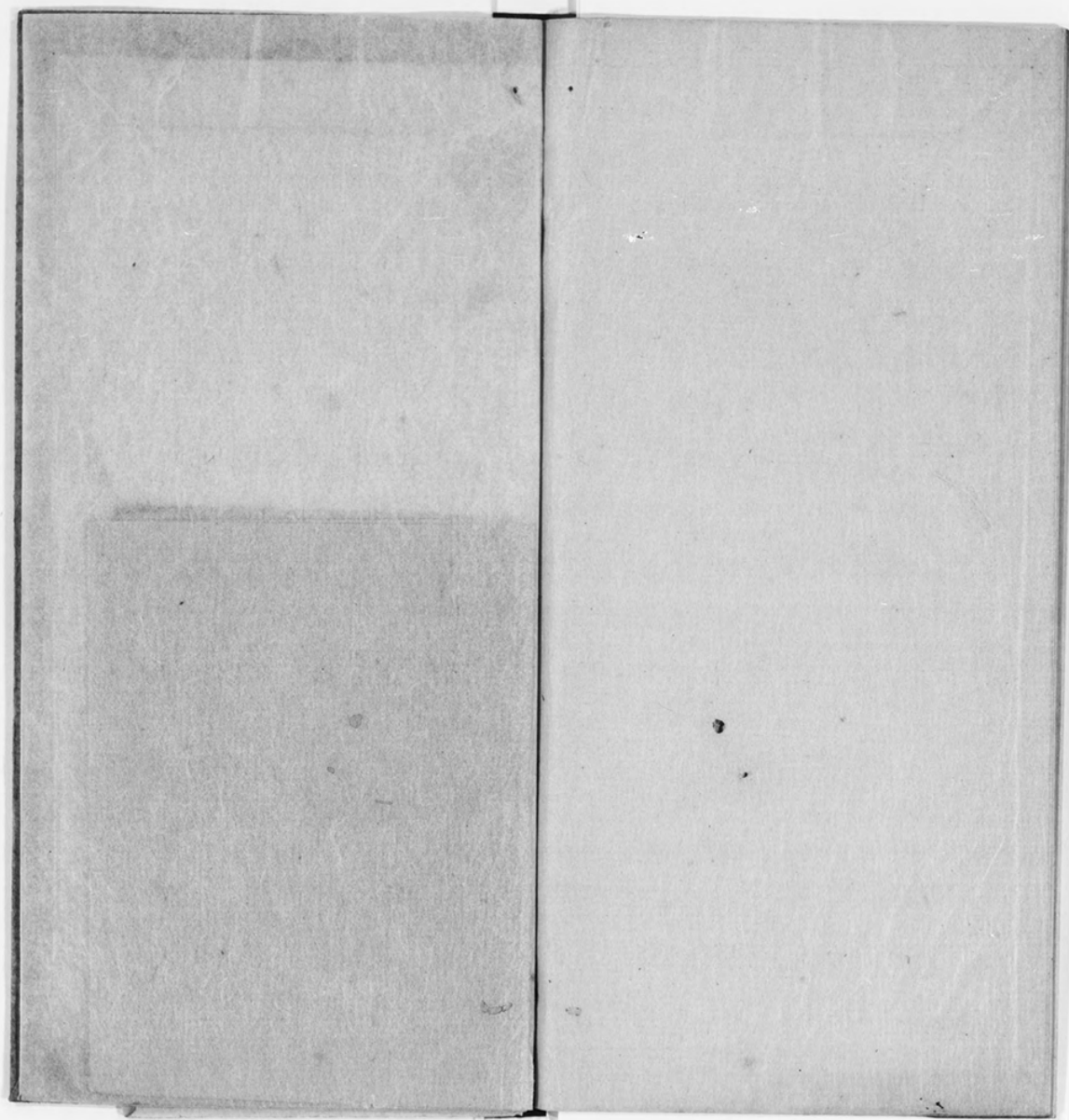
一 所馬、候、正建門、候、口達、口、下りて、お屋、告
迄多、改、而、相達、事

や、通、山、崎、た、此、候、と、候、い、り、の、第、を、決、出、事

五月十九日

途中 // 丁白紙につき

撮影省略



插入文書

真考院様申敬

伏見宮様
同敷
鐵巻
田中徳次郎様

徳次郎様

振井多様

三宅島司様

三宅
菊丸二所様

兼吉信君様
降元明院様

幸澤親院様

真二子様
同敷
徳次郎様
田中徳次郎様

同敷
田中徳次郎様
田中徳次郎様
田中徳次郎様

插入文書

資具用之
 之我亦用之
 同大印之
 凭君之
 幸君之
 維君之
 元君之
 器之
 送予之

